

氏名 近藤 隼

年齢 11歳

職業・学校名 須賀市立第一小学校

私は、あの東日本大震災の時にようちんに  
いました。とても悲しかったです。

地震がおこる前に私は遊んでいました。  
そして大きな地震がおきた時にみんな、せ  
いに外にすぐにひな人をしました。とても衣

変でした。春だったのに寒くて、ブルーシー  
トをみんなでかぶってあたたまっていた。

とても大きな地震だ。たのびとてもみんなで  
うるえながら地震がおさまるのをまっていた。

そして、震災が終わった時には、いろ  
いろな復興で果物や野菜がほかの県からたく  
さんとどけてとても私は、感謝をしています。

私は、復興をして東北が幸せになれるまう  
たしたいと思います。これからも復興を続け  
ていけば東北は笑顔になると良いと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 杉山 匠

年齢 11 歳

職業・学校名 須賀川市立第一小学校

よろちえん生が思った東日本大震災  
 2011年、三月11日、今でも忘れられな  
 い、「東日本大震災」が、当時、ぼくがよろち  
 えん生だった時に、起こりました。東日本の  
 太平洋沿岸に、大津波が発生し、多くの人か  
 てくらえられました。今も、多くえ不明の人を  
 いらつ(や)います。ぼくが住んでいる須賀川  
 市も、大きな被害を受けました。ぼくは、地  
 震が起きたとき、スーパーにいて、スーパー  
 の入り口近くの地面に、大きなひびがはいて  
 いたことには、大きなショックを受けま  
 した。家の中も、たなかくずれ、たんすの中  
 の服が出ていたり、大きなことになっていま  
 した。今は、こわれしまった旧校舎を建て  
 直し、小学校5年生で、楽しく通っています。か  
 できています。しかし、他の人はどうなのだろ  
 う。おれも見るとかできない心にきずを負  
 っている人がいるのかなど、考えがまいます。  
 これからは、こどもや老人、大人といっしょ  
 にふつとらしていくことが大切だと思えます。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 二野将輝 年齢 1 歳 職業 須賀川市第一小学校

ぼくは、東日本大震災の時、上うち園でした。おやつを食やようと、先生が用意し上りとした時におこりました。部屋にいたのでみんなでおさまるのをまわりました。大地震が来たとき、みんなより怖くはなかつたけど、ビクビクしました。その後、ぼくのおばあちゃんがおかえりに来てくれました。家は、めっちゃめっちゃにあわてていました。

○今は、家がめっちゃとちがじやうりので安心しています。学校もこめれたがで今で新しい学校もできてうれしいです。あと学校に復興で歌う人がいたり、有名なサオトさんが来て、バイオリンゴでいろいろなまじくをいいてくれました。サオトさんはバイオリンゴがすごく上手であつてくれました。あとサオトさんは、この学校に希望の歌を使つてくれました。今でも希望の歌をみんなであつて歌つていきます。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 箭内 高牙 佳 年齢 11 歳 職業 学生 学校名 須賀川市立第一小学校

2011年3月11日、ぼくは、ねっで、おこ  
 人で行ったとき、あの東日本大震災が起こりま  
 した。ぼくは、お母さんに起こされて、起き  
 たら、バレーボールがたおねたり、皿やコップ  
 は、おねたり、ひびがはげたりしてました。  
 道路は、ひびがはげたり、くずれていました。  
 そのときの、須賀川市立第一小学校は、校舎  
 は、そんなにかいてしまいました。中には、おねない  
 くらい、くずれていました。校庭は、サッカー  
 コートが、土の中に入っちゃって、いじょう  
 たいで、土が裏の土に落ちていきました。  
 木製フェンスは、おねたり、ひびがはげたり、お  
 ねたの申請のようあって取りたせたりとなりま  
 した。それから4年後、須賀川市立第一小  
 学は、新校舎が作られて、また、勉強  
 しやすい校舎になりました。東日本大震災が  
 なかっただけに、道がよくなりました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鈴木日菜

年齢 11歳

職業・学校名

須賀川第一小学校

震災がおきたのは、わたしがようちえんの  
 ときでした。わたしはあんまりよくおぼえて  
 はいないのですが、お母さんにきくと、「そ  
 のときは、カヤがおちてきたり、フロッグが  
 たくさんおちてきたり、同じようおぼえんぐら  
 ば、かりあっていたりなどして、とてもふバ  
 ンだ、た」と言います。じっさいは、自分の  
 いえには、ひびき、キズ、ハシこわれている  
 ところなどがありました。学校は、かぜつの  
 こうしきで、ふでんなところや、まんぞくに  
 できない事が、とてもありました。でも、今  
 は、新しいこうしきがつくられて、かぜつの  
 こうしきでは、できないか、たこと、ふでんた  
 たことが出来るようになりました。これから  
 震災がおきていないころのようにせとれるよ  
 うになるといいなと思っております。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大和田 朋利 年齢 11歳 職業・学校名

須賀川市 第一小

3月11日、ぼくは、インフルエンザで休  
 けんをやすんでいました。  
 弟もインフルエンザでやすんでいました。  
 弟とテレビを見ていました。そのとき、  
 東日本大震災がおきました。  
 そのときにぼくは、震災のほととのこわ  
 さをもしりました。  
 家の物は、たがたたり、しよ、まは何も  
 かわれませんでした。  
 ぼくは、東日本大震災がおきないう  
 ち、お祝いします。

## 「東日本大震災の体験談と復興への思い」応募用紙

匿名希望

ぼくは東日本大震災が起きた日は、保育園  
でお過ごししました。その日は、ゆれで頭つらが  
しきました。

その年は小学校に入学する年だ。たけれど  
二小を借りて一学期の間は「過ごしました。

二学期からは、仮校舎で過ごしました。

外で遊べない日が続きました。

放し糸線が切くなっていろいろなことがで  
きなくなりました。

ムシテックなどで放し糸線をいろいろ学習し  
ました。

五年生の二学期に大黒町新校舎ができました。

学年スペースや桜水ホールなどの新設備が整

った新校舎ができてよかったです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 水野谷 輝

年齢 11 歳

職業

学校名 須賀川一小

私の東日本大震災の想い

水野谷 輝

私が東日本大震災の体験談は私が卒園する  
 直前より少し前におきました。2011年3月11日  
 東北沖をしんげんとする、マグニチュード9.0  
 の大地しんが東日本一帯をおそいました。そ  
 のとき、福島県は、小名浜に大津波けい報が  
 出て、津波が小名浜をおそいました。話をき  
 いたところ私が今かよっている学校はこわれ  
 てしまったがケガ人などは一切でなかつたそ  
 うです。でも私の家やおばあちゃんの家はど  
 だなから食器が出てわれたりして、こわれまし  
 ましたものはたくさんありました。  
 それでもふっこうへのおそいは戻まつたり  
 しませんでした。一小は二小に校舎をかりた  
 り仮せ、校舎にうっりあたらしい校舎が完成  
 し、これもふっこうへの第一歩だとおそいまし  
 ました。これからふっこうをうづげていき平和  
 な生活ができることが望せたいと思ひました。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

数年前におきた、東日本大震災によ、て、お  
 たし達の生活は、大きく変ち、てしまりました  
 た。原発の事故のえりき、うで、県外にひな  
 んのため福島県の人口は、減り、ふうひ、う  
 ひ害ひ、観光客数も減、てしまりました。お店  
 や旅館など、つぶれ、てしま、たというエキ、  
 スを、見ました。じ、て人も、行かぬ、みん  
 なが一番不安に思、ていら、ほうひ、線量も  
 さんなに心配なりと聞、ていら、ます。今後は、  
 みんなにこれだけの本当の事を知、てもらい、  
 復興を知、てもらい、復興の、一歩一歩、進ん  
 ひいら、てほしいと思、ていら、ます、

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 角谷 晴

年齢 10 歳

職業

学校名

小学生

福島県立第一小学校

私	は	東	日	本	大	震	災	が	お	き	た	と	き	、	ま	だ	よ	う		
ち	園	生	で	し	た	。	な	わ	と	び	き	し	て	あ	そ	ん	で	い	た	
と	き	に	大	き	な	ゆ	れ	が	あ	り	ま	し	た	。	み	ん	な	で	外	
に	ひ	な	ん	し	て	、	バ	ス	に	乗	り	な	が	り	お	む	か	え	が	
来	る	の	時	刻	、	て	い	ま	し	た	。									
海	の	ち	か	く	で	は	津	波	が	き	て	家	や	た	て	も	の	が		
流	さ	れ	て	が	れ	き	に	う	ち	れ	ま	し	た	。	福	島	県	で	は	
げ	ん	は	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
お	せ	ん	せ	れ	て	外	で	遊	ぶ	の	が	禁	止	さ	れ	ま	し	た	。	
私	は	、	海	か	ら	遠	い	あ	い	づ	の	お	じ	い	ち	ゃ	ん	お	ば	
あ	ち	ゃ	ん	の	家	に	一	週	と	ま	り	ま	し	た	。	中	通	り	は	
海	か	ら	あ	ま	り	ち	か	く	な	い	の	で	で	い	じ	ょ	う	で	し	
た	か	港	な	ど	に	す	ん	で	い	ら	う	人	は	家	が	津	波	で	な	く
な	っ	た	人	も	り	ま	す	。	大	地	震	で	た	て	も	の	が	く	ち	
れ	た	と	ほ	ろ	も	た	く	さ	ん	あ	り	ま	す	。	二	の	東	日	本	
大	震	災	に	こ	ま	っ	て	い	る	人	は	今	も	り	ま	す	。	た	か	
ら	さん	と	は	大	地	震	が	お	き	た	と	き	の	た	め	に	今	か		
ら	工	夫	を	し	て	い	け	ば	い	い	と	思	い	ま	す					





「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 吉田 咲良

年齢 10歳

職業・学校名 須賀川市立第一小学校

3月11日、私は、保育園にいきました。あの  
 地しんがあつた時は、相手がわが分前、ただ  
 つくえの下にかくれていました。すると、上  
 から、かぶつておりましたものが全部落ちてしま  
 した。そんな事を体験した事がなかったのだ  
 すごくびっくりしてりました。私の家は、家  
 具が全部たおれて、中に、入れたいはうま  
 ようでした。おじいちゃんがおぼつた事おし  
 ゃに、しばらくおりましたか、とても大変下し  
 ました。お水もいなくなつていたり、食べ物も  
 ちあつてしかなかつたり、それから少し落ち  
 ついたころ、私は五年生は、入学式をしまし  
 ました。一小は、たて物が、全かりして、地味  
 なてがひまじょうたりして、二小さんの  
 教室をかりながら勉強しました。仮校舎た  
 うつたのですが、不慣れな事おしいは、あ  
 ります。そこで、1年かゝる五年の二学期まで  
 いました。ですが、今年の二学期に、新しい校  
 舎が完成し、そちらで勉強をしました。お  
 うとうたなと感じました。





「市口太夫雲雀の体験談と復興への想い」応募用紙

## 匿名希望

5月11日私はカゼではうろえんを休んでな  
 らいごともやすんでいました。そしてお母さ  
 んと話してゐるとまに地しんがおこりました。  
 地しんがおこり、お母さんと私はテニールの  
 下にもぐりました。少しおさまるとマニョ  
 ンの人やまじまじの人がみんな外にひなんし  
 ました。窓から外にでる時にお母さんが足の  
 おみ場をみつけてたんすから服をとりだして  
 私にませて外にひなんしました。家に帰ると、  
 れいぞうこに火をつけていた。梅ぼしやヨーグル  
 トがおもてぐらぐらぐらになつていました。  
 それにでん子しんごもこわれていました。が、  
 テレビはねんちやくテニールでたんにくをつけて  
 ておいたのでテレビはこりかずにすみました。  
 それでお母さんはおちた物をかたづけしてしま  
 した。今は新校舎ができるほど少しづつふ。  
 こゝでまていてよか。となどと思ひました。  
 これからも、少しづつとふ。とふ。こゝしてい  
 るてほしと思ひました。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 三富 一光 年齢 10 歳 職業・学校名 小金井小学校

しんさいから、もうすぐ5年になります。

ぼくの、家族は、お父さんは郡山、ぼくとお

姉ちゃんとお母さんは、会づくらししています。

お父さん、お母さん、お姉ちゃんも、もうすぐ5年生にな

ります。お父さんに会えるのは、2、3ヶ月

に一度ぐらいです。たまにしが会えないので

ぼくは、きんちょうしてしまい、何を話して

いいのかわからず、こまっています。お母さんは、

ずいぶん、ぼくとお姉ちゃんを支えてくれてい

ます。だからぼくたちは、会づくらしが大好きにな

りました。学校も楽しくて、毎日、はりき

っています。でもいつかは、郡山にもど

る時が来ると思っています。どうしたらいいか心

配な時もあるけど、今ぼくは、ぼくなりに、

楽しく、くらししています。



匿名希望

私が四年生のときに東日本大震災が起きました。初めは大きな地震を体験したのとて、怖かっ。そのをよく覚えています。学校の体育館の窓がほとんど割れ、村雪の降る寒いなか、ヒーターでついで自分の親が死かえにくるのを待てていました。家でほろが落ち水道やがが止まていました。そしてテレビを見て初めて徳島でも被害があつたことを知りました。夜には消防車のサイレンが鳴り響いていて朝まで続いていました。被害はさらに続いて  
 原宿による事故がおこりました。父の家がある所が避難区域になり、火災になりました。三月がたつてあとも外で遊ぶなくなるまで、クモシテの登下校などの被害がありました。そして福島県から埼玉県に避難しました。慣れない環境で埼玉での生活が始まりました。今、埼玉に住み始めてから五年がたちます。今年の四月に福島に帰る予定です。私が好きでよく行つていた小鳥の森や春になると花が瑞雲に咲く花見山、夏に毎年行つ

7 川に海な比以前の妾がもう一度見るにとが  
 けまれば長い仔と思ひま可。五年たつとも  
 復興への作業が進んでいくなにとこそあつ簡  
 単にはなはと思ひま可。特に原裕事故に關し  
 へは復興への道が長いと思ひま可。けれど、  
 みるに力を合せていふことか復興への近  
 道だと思ひま可。また元の福島の空に戻るに  
 ともにも前進するにとがけまれば良くなと思ひ  
 ま可。



## 匿名希望

こわがった。びっくりした。わたしは、初めて大地震を経験しました。春のころに地震がくるととてもこわい思いを思い出します。あのときには、おばあちゃんとお兄ちゃんと一緒にわたしでお家にいました。きゆうな地震だったので、とてもびっくりしました。最初に知らせてくれたのは、おばあちゃんとお兄ちゃん。わたしに「外に出て」と言ったので、急いで外に出ると家の後ろのドアの所にお兄ちゃんといっしょにおばあちゃんのジャンパーを二人で使って、ドアにせなかをつけて地震がおさまるまではなれませんでした。こわくてたまらなかつたです。

わたしは、東日本大震災を... 経験して、本当こわい思いをしました。わたしは、これから先、大きな地震がおこらないといいなと、祈っています。みんなの命。一人でも大変な思いをさせたくはないので、みんなを守っていきたいと思います。みんなは一人のために一人はみんなのためには。。

氏名 小山田 陸

年齢 10 歳

職業・学校名 ネット川小学校

00271

ぼくの、東日本だいいんさーにっついでのお  
いす。ぼくととってあの日うまれが一番こ  
わかつた日です。ぼくは、その時ようちえん  
の教室でテレビを、見ていました。すると、  
急にじしんがおきました。でも、ぼくはうご  
けず固まっていた。

その時、しゅうたんののお母さんが来てき  
て、ぼくをだりてくにけてくれました。

そして、お家にかえってみたが、またホール  
から、火がふきだして道路が水がたしになっ  
ていて、ぼくはびっくりしました。

そして、家に入るとみたら、ぼくの家にあっ  
たでっかいとけりかたかにたおれて、つかに  
中ぐらりの穴があります。今でもその穴  
を見るときしんを思い出します。

もう二度と三人がわかっいあ、どったいし  
たくないで。

氏名 水野 幸心

年齢 10 歳 職業・学校名 社川小学校

2011年3月11日に東日本大震災がおこり  
 ました。その時、わたしは、幼稚園の年少で  
 した。わたしはその日、おばあちゃんの家  
 に来て昼寝をしていたら大きな地震がおこ  
 ったので、おばあちゃんとお父さんの兄ちゃん  
 とわたしで道路に出ました。少したつてから  
 お母さんがきて、社川グラウンドに避難しま  
 した。社川グラウンドに避難してからも、地  
 震が続いていました。こわかったのでお母さん  
 といっしょに歌を歌いました。夕方になつても  
 地震が続いて、家には、温泉まで行きました。  
 夜になつてお母さんのおばあちゃんの家に行  
 って、テレビを見て、火事や津波や地震の  
 映像がいろいろ映されていてこわかったで  
 す。それから、何日も地震が続いたり、原発に  
 事故があつた。大変な事が毎日続きました。続い  
 たながらも、みんなが、はげましました。  
 これから大変な事があつてもみんながはげま  
 しぬえたいと思います。





氏名 藤田美宇

年齢 9 歳

職業・学校名

社川小学校

わたしのママはその時ようす(園)にいました  
<sup>お母さん</sup>  
 ので(お母さん)あち(人)ちにいきました。  
 おあち(人)が(お母さん)も、(お母さん)たし(人)か(人)  
<sup>お母さん</sup>  
 きたので(お母さん)7(人)り(お母さん)ました。お(お母さん)水(お母さん)の(お母さん)る(お母さん)言  
 を(お母さん)き(お母さん)いて(お母さん)わたし(お母さん)とい(お母さん)もう(お母さん)は(お母さん)泣(お母さん)きました。  
 わたしには(お母さん)そ(お母さん)れ(お母さん)な(お母さん)か(お母さん)なし(お母さん)の(お母さん)思(お母さん)い(お母さん)出(お母さん)か(お母さん)あ(お母さん)り(お母さん)ま(お母さん)す。

氏名 澤井 龍生 年齢 9 歳 職業            学校名 大里小学校

ぼくは、東日本大震災のさい、で家が壊れた人たちが多くてはまた見ずかたな人々や死んだ人の子どもや大人数の家族がいて悲しく、かわいそうでした。ぼくは、テレビでしか見ておりましたが、東日本大震災のさいのテレビのさいは、見ました。それで、土砂くずれでほとんどの家がくずれてしまひ多くの家が壊れてしまった人々がいる筈じです。けれど、波が来ておひいせんやおはあさんが波にまきまわれ死ななるときに救いの世帯年がお年よりを助けててきりぎりお年よりと世帯年は、にけされて、けがをなされたるうておの世帯年を見てぼくは、おはあさんの家とて思ってておはあさんを見ていましおのそして、おはあさんくずれておはあさんてことでもごわかったです。ぼくはそのとき、おうち園のおひ子のときで、きゅうに大急いでいんがきて、すぐにお外へ出ました。親にもたれいんがしておはあさんに来ててもおはあさん帰りました。ぼくは、このようおはあさんていはいは三層とておはあさんてほしくなっています。

氏名 白井 健聖 年齢 11 歳 職業・学校名 西郷村立熊倉小学校

東日本大しん災を経験して

白井 健聖

東日本大しん災が起きた時、ぼくは、まの  
 ち園生でした。地震が起きた時は、まのち  
 園の帰りに、友達の家の上階で遊んでいまし  
 ました。とつ然大きくゆれて、急いで一階に下り  
 たら、お母さん達に、この口に入るまのちと言われ  
 て、この口に入りました。この口の中には、  
 外の様子は分らないけど、がたん、がたん  
 と皿の割れる音や、バツ、バツ、バツと何

かが、たおれる音が聞こえました。でも、ぼ  
 くは、友達と一緒に、たのび、つわいとい  
 う感じはありませんでした。

しん災から、もう少しで五年が経ちます。  
 今、ぼくがでてる舞は分らないけど、今は  
 しっかりと練習をして、しつと来、復興の人  
 達を支援してやるまのちにしたいです。そのた  
 めに、先生に話をし、かり聞いた、友達を太  
 業にしたんです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 金子晶真 年齢 12 歳 職業・学校名

須賀崎立第一

私は、一年生のとき東日本大震災にあ  
いました。そのとき学校はこたえをいたり  
うていはいあかをしていたり、そのしん  
を見たあけでもビックリしました。

あまちとこつとあかはいたりたりと歌  
そのころはあかどうかんをいりました  
た。いきなりあかはいんがまきて、よこ  
ビックリしました。

あかた学校は、今またらしくできて、元  
にとうこうしてあか、あかをしてあか  
うていあかたあかにはあかたあかたあ  
あかたあかビックリしました。

大震災からビックリのあかあかあかあ  
あかあかあかあかあかあかあかあかあ

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 瀬和 紗花 年齢 12 歳 職業・学校名 須賀川町 第一小学校

2011年3月11日午後2時46分に東日本大震災が起きました。私は、病院にいました。地震がおさまって家に帰ると、たなが倒れていて、皿が割れて家の中はめちゃくちゃで足のふみ場もありませんでした。水道をひいても、水がでなくて、ガスをつけても火がつかなくて不便でした。なのでオンラインで食べ物や飲み物を買って車で往ぎしました。次の日は、家にもどってめちゃくちゃになった所を掃除をしました。その日は自分の家にもどりました。家の外は、家がこわれたりして、たへんでした。今までの幸せな生活にもどるには、とても時間がかかりました。今でも、家に帰れない人や住む場所がない人がたくさんいます。だから私は、ボランティアや人を助けたりして、住む場所を見つけたら、家に帰れない人を敬愛をなくして帰れるようにしたり、家がない人には、お金を出して家を建てたりして欲しいです。これから地震の時に必要なものを備えておきたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 三本松 理

年齢 12 歳

職業・学校名 須賀川市立第一小学校

私が震災を体験した年は、平成二十三年ま  
だ私が六さいの時のことでした。大きな地震  
が起きる前、私はとくく家に近づいていきまし  
た。父も仕事か休みで家におり、居るいは  
当時三年生の兄だけでした。ゴゴゴと大き  
な音がな。その後大きな地震が私たわをとおそ  
うした。家の中でとくさにひびがみ、地震が  
おさまるのを待ちました。家族みんなで学校  
に居る兄のおがえに行きました。学校に行く  
と中の道はバリバリに割れ、道にはたくさん  
の人がしががみこんでいました。無事に兄を  
連れ帰り、家ではすぐには出るように一階で  
おりました。  
そんな最悪の日々をおく、大時からもう五  
年がたります。市は当時から建て物がきびに  
に復旧しており、おの時の地震のキズ下トが消  
えつてあります。こ水からの泉の復興に遅人  
で取りくみ、いつ起きるか分からぬに自然災  
害に近づいて深く考えたいと思っております。また、  
同じ思いをした人達と助け合に生きてい下す。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 尾形 萌生

年齢 12 歳

職業・学校名

須賀川市立第一小学校

私	が	東	日	本	大	震	災	を	体	験	し	た	の	は	、	小	学	校		
(	年	生	の	時	で	、	今	か	ら	、	た	い	た	い	と	い	5	年	前	
に	な	り	ま	す	。	児	童	館	に	い	た	の	で	先	生	方	の	話	を	
聞	い	て	、	お	お	に	ひ	つ	く	る	事	が	で	ま	ま	し	た	が		
私	は	、	周	り	に	い	た	友	達	が	家	族	が	お	お	と	心	配	し	て
い	て	、	泣	い	て	お	た	り	し	ま	し	た	が	、	「	私	は	泣	い	て
は	い	け	な	い	」	と	言	え	決	心	を	し	て	い	ま	し	た	。		
で	も	家	に	い	た	お	つ	と	も	、	お	じ	い	ら	ん	が	ど	う	し	て
も	心	配	に	た	て	し	ま	す	。	し	と	と	う	泣	い	て	し	ま	い	ま
し	た	。	周	り	が	重	い	空	気	に	な	り	！	子	ど	も	違	い	の	お
お	お	の	お	お	か	え	を	で	き	る	は	早	く	お	お	が	い	ま	し	ま
し	ま	す	。	と	児	童	館	が	電	話	を	し	ま	う	と	し	て	も	電	話
線	が	切	れ	て	し	ま	す	。	て	い	た	の	で	電	話	あ	る	事	が	あ
ら	な	い	と	い	う	い	ま	う	ま	う	で	も	、	仕	事	が	あ	ら	な	い
戻	っ	た	お	お	あ	ち	お	ん	が	お	お	か	え	に	来	て	く	ら	ま	し
た	。	そ	の	こ	ろ	に	は	、	私	も	泣	き	お	ん	で	い	て	、	お	お
か	え	に	来	て	く	ら	ま	る	が	と	、	怖	い	と	い	う	思	い	が	あ
ら	な	い	で	ま	た	泣	い	て	し	ま	い	ま	し	た	。					
私	が	住	ん	で	い	る	須	賀	川	市	は	大	震	災	の	お	お	は	少	な
く	て	良	い	。	た	が	あ	ら	な	い	。									



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 齋藤 慎哉

年齢 12歳

職業

学校名 須賀市第一小学校

東日本大震災があつたときぼくは7才でし  
 た。家に帰りお父さんとテレビを見ていると  
 あの大震災が起きました。家の中では、色々  
 な物語までこわれたり、おれたりしました。家  
 は色々な電のかさん乱していたので少しの間  
 だけお父さんの車の中におまじたり。でも、幸  
 い津波はこなかったのよ、よかったです。でも  
 もぼくらがかかっていた校舎は、ガラスが割  
 れ、地面にはひひかはいってしまいました。  
 のので低学年だったぼくらは二つにかよせ  
 ておまじりました。そして現在はまた大黒野校  
 舎になりなりました。たからこそ、これか  
 は地震がどうせんにあいるほしいし、自然の  
 災害なのでたれにもとめることはできな  
 いのよ、もしまにかいさのためたひす  
 るよつ、家族たちと話し合つて集合する場所  
 を決めたり、ひなげしをたしかめたり、ひな  
 んの道具を毎日調下たりしといて次  
 へにかか  
 ちつてもすくに対処するよつたしたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名山田葉奈

年齢 12 歳

職業・学校名 須賀川市立第一小学校

東日本大震災のとき私は、家の片づけを手  
つだ、たり、家の前にあった福祉センターで  
商店街の人たちと話し、しょに、お弁当を売  
たりしました。その事を通して、協力するこ  
とは大切な人だなあと思いました。また、い  
つも当たり前だと思っ、てしていたことが、当  
たり前にできなくなっ、てしま、た日でもある  
ので、毎日の生活かとてもありがたいものな  
人だなあと実感しました。

震災から五年が経ちましたが、まだ完全に  
復興したとは言えず、未だに仮設住宅で暮ら  
している人もいます。原子力発電所や放射線  
の問題も解決していません。しかし、多くの  
人が、少しでも早く解決できるように働いて  
います。私達ができることは少ないし、小さ  
なことだと思いますが、復興のために、たく  
さ人のことを考え、取り組むことは大事だ  
と思います。今後、またこのようなことが起  
らないとは言えません。復興するとともに、  
対策もしていかなければなあと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大河内 希 年齢 12歳 職業・学校名 須賀村第一小学校

1. ぼくは、平成23年3月11日に起きた東日本  
 大震災のとき、小学1年生でした。震災の日  
 ぼくは家に帰って宿題を始めようとしていたら  
 そのとき長い地震がぼくをおそいました。家  
 の中のたなから物が落ちてきたり、しょうじ  
 がたおれきたり、あみ戸がたおれきたり  
 水がたまるといって、トイレの水がおぼろの  
 水が使えなくなるといって、たいてい、家がたむ  
 いたり、かべにかけられている物が落ちてきたり  
 と大変でした。

今後は除染が進んで放射線が少なくなるとい  
 うことを思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 金子 遼二 年齢 12歳 職業・学校名 須賀川市立第一小学校

3	月	11	日	、	2	時	4	6	分	3	秒	の	時	大	き	な	地	震
東	日	本	大	震	災	が	発	生	、	そ	の	と	き	、	ほ	く	は	お
お	け	お	ち	か	ん	の	家	に	、	い	ま	し	た	。				
そ	の	時	、	ほ	く	は	今	ま	で	体	験	の	し	た	と	昔	の	お
い	地	震	を	体	験	し	ま	し	た	。								
そ	の	あ	ら	の	、	夜	、	何	回	を	何	回	も	お	震	が	き	て
こ	お	い	、	こ	お	い	と	ま	っ	て	い	た	の	ま	、	お	ぼ	ろ
い	ま	ち	。															
そ	の	、	3	月	11	日	の	夜	は	、	お	け	お	ち	か	ん	ち	で
お	か	し	ま	し	た	。												
そ	の	夜	は	、	水	道	を	使	え	な	い	な	が	お	い	、	た	の
か	い	も	で	て	、	た	ん	が	不	便	な	と	い	く	は	、	思	い
ま	し	た	。															
そ	の	何	日	が	後	に	、	学	校	生	活	が	ス	タ	ー	ト	、	旧
校	し	か	が	お	お	け	て	し	ま	っ	た	の	2	0	1	1	年	生
小	学	生	の	、	レ	ッ	キ	ョ	ウ	が	し	た	。					
そ	の	次	に	仮	設	校	舎	に	か	り	ま	し	た	。	2	学	期	に
ひ	ろ	と	新	校	舎	で	、	学	校	生	活	が	ス	タ	ー	ト	し	て
と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と	と

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐川 唯夏 年齢 12歳 職業・学校名 須賀川市立第一小学校

私が震災を体験したのは、一年生で、6才  
 くらいでした。引越す前の学校で、ちゅう  
 ど帰る直前、帰りの会をしているというよう  
 なときでした。その時は突然やってきました。幸  
 事一年生だ。た私たちにとっては、すごい極  
 くて、中には泣いてしまっている子もいまし  
 ました。幸い、私がいた学校や家には、大きな被  
 害はなく、しばらくたつとすぐに学校に行け  
 るようになりしました。そして二年生の秋に  
 今の学校に引越してまいりました。そのと  
 きの学校は仮設校舎で、震災の酷さを改めて  
 理解しました。今年の二学期にやっと新校舎  
 で勉強できるよつになりました。今では、仮  
 設校舎のときに不自由だった体育館も、自由  
 に使えよつになりました。一三  
 私は、今でも仮設校舎で勉強している人や、  
 仮設住居に住んでいる人たちの新校舎や、新  
 しい家が、早く完成し、そこに笑顔でいら  
 せることができるといいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 小山悠希

年齢 12 歳

職業・学校名

須賀市第一小学校

ぼくが東日本大震災を体験したのは、大黒  
 校舎からくも人について多くで帰郷している  
 時におきました。ぼくは、くも人の先生のち  
 がらにいたときくも人の先生がうくよの下に  
 はいってしまいました。そのときです、いす  
 いゆれからどんどん大きいゆれになりました。  
 ぼくは、びくくりしました。そしてらご人の  
 お母さんがおかいにきて、帰。そしほいまし  
 た。ぼくは、先生と、いっしょにいました。  
 夜の9時までずっとおかえがこぼれ、たのど  
 ずっといきました。そのときです、お母さんがお  
 かえにまたのどほ、としました。弟は、よう  
 ちえんバスにいたのでよかったです。そして  
 家に帰っていたら、テレビがたおれていたので  
 でおかかったです。

復興への想いは、ぼくみながそろそろが  
 せ、ふつぎゅうしてほしいです。みなみそ  
 うましのがしきあはれとて、あして、ちの  
 くしい町にしてほしいです。明るくい町に  
 てほしいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鈴木まゆ 年齢 12歳 職業・学校名 須賀川市立第一小学校

東日本大震災が発生したとき、私は1年生  
 でした。早い帰りに家にいました。宿題を早  
 く終わらせようと部屋着にきかえていた時でし  
 た。どろぜんテレビから地震発生の警報がな  
 りました。すると、家全体がゆれて/たなか  
 がおれました。食器やコップが割れて家の中  
 がめちゃくちゃな状態でした。お母さんは、布  
 団で必死に守ってくれました。私はきょうふ  
 で泣きさけんでいました。まず、家から出よ  
 うと車に布団を入れて、妹のいる保育所に行  
 きました。その後、おばあちゃんの家へひ  
 なんしました。テレビを見ると、津波が各地  
 でおそっているのを知りました。

震災から4年半がすぎ、12才になりました。  
 社会の授業で震災後の復興について学び  
 ました。海外、日本各地から支援を多く受け  
 ていたなんて初めて知りました。がれきの撤  
 去、医りょう活動などをしてくれました。私  
 も、またこんな地震があつたら、ボランティア  
 などに参加した、協力したいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 寺島夏希 年齢 12 歳 職業・学校名 須賀川市立第一小学校

私は、その時小学一年生で、児童クラブで宿題をやっていたところでした。この東日本大震災で私たちの校舎はこわれてしまい、第三小学校を借りて勉強することになりました。私の家の近くのヨックベニマルでは、お店を外に出してパンや食料品を売ってくれました。そしてダイユー-8では、食料品が少ないなか、多くの食品などを売ってくれました。

このように東日本大震災では、多くの支えがあり、ここまで復興することができました。なので、これからち、みんなで助け合いながら復興していきたいです。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 橋本 遥菜

年齢 12歳

職業・学校名 須賀川市立第一小学校

2011年、3月11日の東日本大震災が起きた時、私はまだ1年生でその時は児童館にいました。「ガタガタ」と色々なものが揺れたり、「ドニ」とものが落ちる音がたくさん聞こえていました。テーブルの下には、みんなが泣いていたり、どうようしている友達がたくさんいました。須賀川市は震度も強とう、とても強い地震でした。1度は揺れがおさまりましたが、何度も余震がきて、とても大変でした。

私が1番びっくりしたのは、とてもきれいな児童館なのに、戸がこわれていたことです。地震にこんな力があったとは思わなかったのです。とてもびっくりし、強く印象に残っています。

地震があったから、テレビでは津波の被害や福島県の原子力発電所での事故やボランティア活動がでていました。さまざまの方々から支援をされて、復興へどんどん近づけているので、とてもうれしいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 須賀 大志

年齢 12歳

職業・学校名 須賀川市第一小学校

ぼくが東日本大震災にあつたとき、一年生  
 でした。そのとき、ぼくはインフルエンザ  
 の熱が下がりに、もう少しで登校できるとい  
 うくらいでした。それは、た時から大き  
 く、こたつで寝ていたお母さんを起こして、  
 一階への階段を走り、外へ出ました。地震が  
 おさまったから、家の中に入ると、たねの上  
 の物が落ちていたり、たねがたおれていたり  
 と、物が散らかっていました。その次の日、震  
 のお婆さんの家に一時的に住まわせてもらい、  
 お父さん達は家の片づけをされていて、ぼくと  
 弟は遊んでいました。  
 大きな大きな地震にあつて、こたつでし  
 まった家とたくさん。そして、ぼくたちの家  
 は3階をぬけてよかったです。テレビで殺人  
 とか自殺とかの話がよく出るけど、震災が津  
 波で死んでしまつた人っているのに、さか  
 助かっただけから、そういうことをする人が  
 いると、お婆さん「い」と思っています。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大垣 奏奈

年齢 12 歳

職業・学校名 須賀川市立第一小学校

2011年3月11日、あの東日本大震災  
 がありました。その次の日、事故が起きました。  
 「原発事故」です。私はテレビでその話を  
 聞きました。「放射線を大量に浴びると、  
 体に悪えいきょうが出るおそれがある」。私は  
 こわくな。てしまいました。それから一か月、  
 進級して二年生になりました。しかし、今ま  
 で一年間通っていた「須賀川市立第一小学校  
 の校舎は地震でくずれ、こわれてしまいました。  
 た。なので二小で約3か月を過ごしました。  
 その約3か月の間に何人かの友達が転校して  
 しまいました。中には、とても仲が良かった  
 人もいます。「何で転校してしちゃうのかな  
 と疑問を持ちました。様々な理由がありまし  
 たが、「原発事故があつたから」「放射線を  
 たくさん浴びたくないから」という人もいま  
 した。  
 私は、放射線問題が無くなって、福島に  
 また前のようにたくさんの人が来てほしいと  
 思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 釜田和明

年齢 12歳

職業・学校名 須賀川市立第一小学校

ぼくが2年生の時東日本大震災に合いました。福島県には原子力発電所があり、放射能がもれ出し、ぼく達家族は神奈川県に避難しました。ひな人した家の人はとても優しくしてくれました。福島に帰ってきたぼく達は学校がこわれていて、二小を借りて学校生活を送っていました。その後かせつ校舎が出来て、一生けん命勉強をしました。ついに、ぼくが六年生の二学期が始まる時に、新校舎が出来ました。これからは、みんなと協力して、良い生活を歩んでいきたいです。大人になったら少しでも須賀川の役に立ちたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 川林 和 年齢 12 歳 職業・学校名 須賀市立第一小学校

ぼくが東日本大しんじんを体験したときは、  
 一生住のころでした。家からかえってきたと  
 き、大きなおじしんがきました。大き  
 くなって二つがったです。家にはいくつがのひ  
 びかできました。家のかあらかわってとても  
 たいへんでした。食心物も少なくなつて、  
 おふるもはくれなくなつてしまつてまたい  
 へんでした。ぼくは、あの、東日本大しんじんさ  
 らを体験して、じしんはどのとらいのきつら  
 ふいで、お水が月たいていへんになつたかよよく分か  
 りました。

氏名 木暮 天音

年齢 12歳

職業

学校名 須ヶ小

平成23年3月11日金曜日2時46分に福島県  
に大きな地震が来た。マグニチュード、9.0  
の東日本大震災が起きた。  
その時僕は小学校一年生で近所の友達と  
下校途中だ。た。地震りのゴーと言う音と  
もに道がぐにぐに揺れて波打。た。古いアパ  
ートの近くに住んでいる人たちは危ないと思っ  
て近くに住んでいる人が危なくない煙の中にも  
なさんさせてくれた。そのにおはあちゃんを弟  
がむかえにきてくれて家に帰。た。家の大窓  
な窓が外にはずれていて、ゆれも何度も来て  
怖かったの。外にいました。友達のお母さ  
んが来てくれてぼくと弟を車に乗せてくれて  
寒くないように暖かくしてくれました。その  
後すぐにお母さんが会社から帰。て来たけど、  
家の中には入れずお母さんの実家に避難し  
ました。  
あの地震で家族は無事だったけど、放射能  
の心配もあり。両親とはなれて大阪に避難  
したのでもう大きな地震はおきてほしくない。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 田原 乃希

年齢 12歳

職業

学校名 須賀川市立第一小学校

2011年3月11日、東日本大震災が  
 おきました。地震が起きた前私は、おじいさ  
 さんの誕生日の事を考えたから、児童館に行  
 きました。楽しい時は、みんなが、楽しく遊  
 びました。その時、地震が起きました。先生  
 のしご、机の下にくっついてました。私、  
 びっくり、おそろしく思いました。でも、長か  
 らよびに思えるくらいでした。家に帰ると、  
 色々な物がたおね、ガラスは、割れてて  
 びびり、たてず。今は、震災から4年、学校も  
 もとにもどり、校庭も、かりきれいにかけ  
 ました。でもまだすべて、回復してない所  
 があります。そういう所も、これから、少し  
 ずつでいいから、直していき、してほしいと思  
 います。まだ仮設住宅や仮設校にいたる人々も  
 も、元の学校で、元気で遊んでほしいと思  
 います。



「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 関根 希聖 年齢 12歳 職業・学校名 須一小6年

ぼくは、2011年3月11日、東日本大震災がおきたとき、まだ、須賀川第一小学校の一年生でした。

宿題がおわり、家の中でお兄ちゃんと遊んでいたら、あの悲劇が起りました。最初に軽いゆれが起き、そして強いゆれが1分以上続きました。家族みんなで外に逃げ出し、ゆれがおさまって、家の中に入ると、お母さん、もう、いしごんなことになりました。

ぼくは、あの地震を体験して、災害がどれだけの怖いものかわかりました。

いまもまだ、あの地震のせいで、家に帰れない人や、自分が住んでいた、市などに帰れない人がいます。早く、みんな自分の家などに帰れるようになるように、ボランティア、アななどを積極的に呼びたいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鴨原 希和 年齢 12 歳 職業 学校名 須賀川市立第一小学校

私は東日本大震災のとき、小学生でした。

私は家で宿題をやっていたときです。テレビには何か見たことのない文字がでてきて、急に家が大きくゆれ、人生初めての体験でとても一生忘れる事のないまほうの力をあげられました。

月日がたち私は今小学生として、しっかりと校舎で生活しています。これはあたりまえのことではありません。

須賀川一小は、昔の校舎はほぼ全部が壊れてしまい、私が二年のときは二小をかり、二学期から六年の一学期まで仮設校舎での生活でした。でも私はぜんぜんいやなことはありませんでした。夏から新校舎になり、ちやうど新しい気持ちもありました。しかし、私がここまで成長できたのは、家族のやさしき、地域の方々の協力でした。だから今も家に帰りたい人達を、国、県、市の方々がいっしょにけんめい家に帰れるようにしてくれることを私は願っています。



